

## 新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

### 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

#### 【取組1】(A中学校)

新学期初めの全校朝礼で、『『学校』って何だろう』をテーマとして、「ぜひ、学校で『たからもの』を見つけていってほしい。」という願いを込めて、絵本を通じた講話を行った。

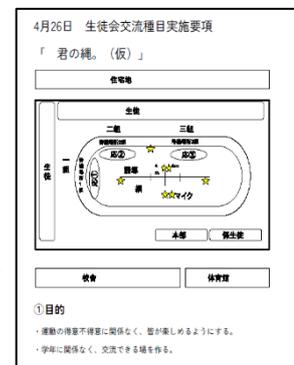
新しい場所で関係性を構築する際、好奇心や探究心をもつことの大切さを伝えている。



#### 【取組2】(B中学校)

運動会の生徒会種目を毎年生徒会が中心となり、何の種目を行うかを決めている。今年度は綱引きで決定。各クラスから綱引きの選手と応援団をそれぞれ選出している。また、この種目は1年～3年の縦割りでやっている。

運動会を通じた異学年交流は、上級生のリーダー性や下級生の安心感を育み、学級全体のきずなを深める大きな効果がある。



#### 【取組3】(C中学校)

3年の英語では学習モデルを活用した能動的学習の視点を次のとおり行っている。

- ① 1つの単元の説明後に生徒が課題プリントに取り組む。
- ② 次に4人1グループになり、それぞれ取り組んだ課題を確認し、分からないところがある場合は、分かる人が教えるという形で“教え合い”を行う。
- ③ ①、②の時に教員から声を掛け、生徒との関わり合いを大切にしている。

#### 【取組4】(C中学校)

生徒意識調査を活用した魅力ある学校づくりの研修の第2回では、生徒意識調査の結果を基に、取組の効果検証についてフォームを用いた手順に従い、各学年(2～3人組を1グループ)で話し合っ入力してもらった。

また、魅力ある学校の実現には、授業づくりの中に生徒指導の実践上の視点を意識的に取り入れることが重要ということを伝え、チェックリストの提示(紙ベースでできるものとフォームの入力)を提示した。

## 多様な学びの場を確保する取組

### （「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

#### 支援会議（B中学校）

不登校の支援会議の生徒をピックアップし、近況を担当から聞き取り、名簿にして情報共有を行っている。SC・SSW等が参加し、多角的に助言して、不登校対応巡回教員は他の巡回校での情報提供や教育支援センターでの生徒の情報共有等。多角的な支援を行っている。

#### アウトリーチによる支援（C中学校）

家庭となかなか電話での連絡がつかない場合、担任は早急に管理職に相談（担任経験の浅い担任には丁寧にフォロー）、ケースによってはSSWや不登校対応巡回教員等と協力をして、家庭訪問（早期支援）を行う。担任による家庭訪問の継続やSSWの迎え等の登校支援によって、学校に登校することができる生徒も増えている。

#### 校内別室における支援（D中学校）

学習スペースでは、パーティション等を使用して、周囲の視線を減らすことのできる個別ブースや圧迫感を与えずにサポートができる六角形のテーブルの配置等を工夫している。また、本と新聞のコーナーでは、司書や図書ボランティアの協力で2か月に1度書籍の入れ替えをしている。本を読む場所も、校長先生のおすすめの畳に座って自由に過ごすことができる空間がある。



#### デジタル機器を活用した支援（D中学校）

授業支援ツールで作成した支援日誌を使用し、支援員に入力してもらう。

支援した内容・校内別室生徒の様子等を先生方が見ることができる。不登校対応巡回教員も当該生徒が在籍する学校以外に勤務する際に、生徒の様子を他の巡回校から確認することができ、次回の準備ができる。

#### 関係機関との連携（E中学校）

担任はいつでも気軽に相談できる雰囲気がある。SC・SSWの方からも積極的に担任の先生のところへ情報共有している。今年度からは、不登校対応巡回教員もその仲間に加わり、どんな形でも対応できるよう体制を整えている。

## 成果

巡回担当校 5校で校内別室がそれぞれ確立され、生徒を積極的に受け入れられる状況になり、先生方の意識も変化してきた。支援員に対するケアを行うことにより、よりよい校内別室の運営を支援することができた。

## 課題

校内別室に受け入れる対象生徒の基準が教員の意識によって異なる点。各担任による不登校生徒への対応に違いがある点。不登校生徒に対するケース会議の機会が少ない点。